
光る車

茶和

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光る車

【コード】

N9653T

【作者名】

茶和

【あらすじ】

自動車って素敵な乗り物ですね。ひどかった車酔いを克服した私は、車愛に目覚めました。走る、走る。

(前書き)

嫌いなもの、苦手なものはないほうが良いのです。人生の選択肢が広がるから。私もひとつ、広がった。

子どもの頃、車が最大の苦手だった。バスだろうがタクシーだろうが、乗ってものの5分もすると顔面蒼白になる。生唾が出、頭痛がする。肩が急に凝ってくる。ビニール袋は必需品だった。

ところが小学校では、春と秋の遠足は必ずバスだった。バスに乗るのは課せられた憂鬱な義務だった。三年生の遠足は秩父方面の山へ行き、一日中バスに揺られて連れ回される日程だった。酔い止めの薬は当然効かない。出発して一時間もたたないうちにグロッキーになり、「バスはもう無理、家に帰る」と駄々をこねた。親切にもバスは近くの私鉄の駅に寄ってくれて、ひとりの先生と、多分遠足気分でなかった児童がひとり便乗して加わり、計3人で電車で帰宅してしまった。

高学年になると、さらに夏の林間学校と臨海学校が加わった。六年生の臨海学校は、片道バスで6時間の殺人的行程だった。迷うことなく欠席を決めた。クラスでただひとり欠席だったが、そんなの何でもないことだ。

そういう訳で大人になっても、車には縁のない生活を送っていた。ところがどうしたことが、息子はハンドルを手に握って生まれて来たような子で、幼い頃から車大好き、排ガスの臭いを「いい匂い」と言う、信じたがい性向をしめした。16才になった途端原付免許を取り、すぐに自動二輪、さらには当然普免へと進んだ。「このままではペーパードライバーになってしまう！」という悲鳴に、仕方なく安い中古車を買った。初運転に同乗する際、私は酔い止め薬をしっかりと飲み、飴玉を立て続けになめた。すると、非常な緊張感の助けもあり酔わなかった。

ふと、運転席の息子を見ると、どうだ。なんと気持ち良さげなんだろう！

ウインカーを出し、滑らかにステアリングを回し、緩やかに右折

する。心地よいGが体にかかり、景色が回る。徐々に加速し、滑るように車線変更する。バックで一発で車庫入れをする。なんとしなやかに優雅なひとときのだろう。突然私は、シルバーのステージアを運転している自分を想像した。そして勢いで教習所に通い始め、三ヶ月後には憧れの普免を手にしたのだった。

私は難なく車酔いを克服した。こうして隠されていた私の車好きの性向は遂に陽の目を見ることになり、以来八年、我が家では計八台の車たちを飼ってきた。今は赤と黒、二台の車が仲良く住んでい

る。

ゲートを通過すると

少し胸が苦しくなる

右ウインカーを出し

キックダウンする

一気に加速だ

一気に加速だ

気流に乗る

オオワシのように

軽々と流れに同化する

右側を

赤いカウンタックが抜き去って行く

真ん中の走行車線を

斜めに突っ切り

追い越し車線に移る

もう 当分

走行車線には戻らない

空の青 雲の白

木々の緑

すべて透明にまざり合う

光のリボンのように

流れる景色

振りきりながら全身で風を感じている

目的地は

走るために決めた

ただ走るために

ここに来た

(後書き)

これからの季節、
緑濃い中を疾走するもよし、
夜景に抱かれて、
走
るもよし。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9653t/>

光る車

2011年7月31日17時50分発行